

## 文化遺産総合活用推進事業 実施計画

1 都道府県・市区町村名	宮城県	2 補助事業の種類	地域文化遺産活性化
3 実施計画の名称	宮城県地域文化遺産復興プロジェクト		
4 実施計画期間	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度		
5 実施計画の概要			
<p>宮城県文化芸術振興ビジョン（平成17年策定）を踏まえ、東日本大震災からの文化遺産の復興、地域社会への還元を目的に、以下の事業を実施する。</p> <p>事業の実施にあたっては、それぞれ個別の対象の復旧と活動の活性化への寄与を目指すものであるが、同時に地域社会とのネットワークの構築を図り、今後の活動の自立への支援も行っていくものとする。事業を実施することにより、震災に伴い活動が休止した無形の文化財の復興を支援するとともに、不安定な状態に置かれている有形・無形の文化遺産について保全を図る。最終的には文化遺産を未来に継承できる体制を再構築し、発展させる環境を作り出すことにより、震災により失われた地域コミュニティの活性化に貢献することを目指す。</p>			
<p>1 人材育成</p> <p>①宮城県の観光情報ボランティア育成事業（平成29～30年度）【事業1】</p> <p>②宮城県のヘリテージマネージャー養成事業（平成29～33年度）【事業2】</p> <p>2 普及啓発</p> <p>①宮城県の伝統的工芸技術普及啓発事業（平成29～33年度）【事業3】【事業4】</p> <p>②宮城県の無形文化遺産普及啓発事業（平成29～33年度）【事業5】【事業6】</p> <p>3 調査研究</p> <p>①宮城県の無形文化財調査研究事業（平成29年度限り）【事業7】</p> <p>4 後継者養成</p> <p>①宮城県の無形文化財後継者養成事業（平成29～33年度）【事業8】</p>			
6 実施体制			
<p>宮城県（宮城県教育庁文化財保護課）が、本実施計画に係る全体の企画・調整や、各補助事業に係る指導等を行う。主な事業分担者は以下の通りである。</p> <p>①宮城県教育庁文化財保護課：上記【事業1】～【事業5】【事業8】の企画・運営を担当する。</p> <p>②東北歴史博物館：上記【事業7】の企画・運営を担当する。</p> <p>③女川町獅子振り復興協議会：上記【事業6】の企画・運営を担当する。</p>			
7 実施計画における目標と期待される効果		別紙①のとおり	
8 補助事業の概要	(1) 補助金額	～平成28年度交付決定額： 212,126 千円	平成29年度申請額： 11,627 千円
(2) 実施事業の概要			
9 その他計画実施により想定される効果（定性的な効果を記載）			
<p>1 人材育成</p> <p>【事業1】観光情報発信ボランティア育成事業</p> <p>宮城県内の歴史の道に関して、サークルを組織して学習活動を展開している団体が県内に複数存在する。この事業の実施により、正しい知識を身につけ、自らで情報発信ツールを編集し（パンフレット類）、相手にわかりやすい話法を身につけることで、これらの生涯学習サークルの活動をさらに活発化させ、その発展的な展開として、身につけた知識を幅広く活用して地域の活性化に資することが見込まれる。</p> <p>【事業2】ヘリテージマネージャー修了者技術向上事業</p> <p>①ヘリテージマネージャーの歴史文化遺産を活用する能力の向上。</p> <p>②歴史文化遺産を保存する能力の向上。</p> <p>③まちづくりに参画する能力の向上。</p> <p>2 普及啓発</p> <p>【事業3】伝統的工芸技術雄勝硯普及啓発事業</p> <p>雄勝石の存在は復元工事が完成したJR東京駅舎の屋根材にスレートとして使用されたことから、認知度が拡大した。しかし震災により生産基盤が壊滅状態にあり、復興の道のりははなはだ遠いものがある。また雄勝石を使用する雄勝硯の他に、雄勝石を加工して天然スレートとして屋根材として使用する保存技術を文化財として保持しているのは1名だけである。また震災の影響により、雄勝石の加工作業そのものが停滞している。このような状態から、普及啓発活動を実施することで雄勝石に対する認知度をさらに高めるとともに、加工技術保持者の継承意欲の向上をはかることが期待できる。ワークショップの開催により、200名程度の参加者を目標としている。</p> <p>【事業4】伝統的工芸技術仙台筆筒普及啓発事業</p> <p>平成27年度宮城県地域文化遺産復興プロジェクト実行委員会による伝統的工芸技術記録作成事業において、県内所在の仙台筆筒の調査成果をもとに、シンポジウム・展示会を実施したところ、研究者・職人のみならず一般の参加者も多く、仙台筆筒に対する関心の高さが窺えた。しかしシンポジウムという形式での普及啓発は、堅苦しい・難しそうというイメージがあるせいか、一般の人々が集まりにくい傾向がある。そこで易しめの文章、写真やイラストが充実したパンフレットを作成・配布するとともに、仙台筆筒（実物）やその製作技術に係る解説・写真・イラストを載せたパネルを展示し、ワークショップを兼ねたイベントとして開催することで、幅広い年齢層に仙台筆筒の価値や魅力を知ってもらえると思われる。なお効果測定方法については、イベントの集客数で測定することとする。</p>			

**【事業5】無形文化遺産（日本刀鍛錬技術）普及啓発事業**

近年若い世代を中心とする刀剣（日本刀）ブームにより、日本刀を深く知りたいというニーズが上昇している。日本刀そのものは博物館や美術館等での展示で見ることが可能であるが、その制作過程いわゆる鍛錬技術については写真やパネル等の展示でしか知ることができない。ゆえに日本刀鍛錬技術を撮影した映像資料を使用し、日本刀の制作に携わる技術者やその研究をしている学識者を講師に招いたシンポジウムを開催することで、日本刀に関心をもつ人々のニーズに応えることが可能である。

**【事業6】「獅子振り披露会」の開催及び普及啓発事業**

正月に舞う女川町の獅子振りは、各浜ごとに古くから伝承され、地域住民のよりどころであり、その行事を行っていたのは、実業団であった。（実業団が解散した地区は、区や保存会を立ち上げ実施）どの地区も、地域の伝承を守るべく子どもたちへの指導も行うと共に、仮設住宅暮らしなどで地区を離れた方々も地区を離れた地区民も、獅子振りを舞うために正月には実家に戻っている。このように地域の伝統民俗芸能を後世に残すための継承活動が、地域のコミュニティの結束や地域内の相互連携が推進されることが、震災後の人口流失にも繋がり、地域社会復活の起爆剤となる。多くの方々の支援を受け、平成25年3月末までに獅子振りの道具が全て揃ったことから、津波という悪魔を追い払い、犠牲者の鎮魂と支援への感謝、一日も早い町の復興を祈願するため、15の獅子振り保持団体が集結し、「獅子振り大披露会」を開催するものである。  
女川町民は、約7割以上の方々が被災し、5年半たった今でも不自由な生活を送っている。復興にはまだまだ時間がかかっている。そのような中で、誰もが特別なことではなく、以前の普通の生活を望んでいるように普通に祭りがあつたり、正月行事があつたり、そこに集う人々との交流が当たり前であった。この「復活！獅子振り披露会」で、その普通のことが少しでも感じ取っていただき、多くの支援に感謝することを忘れずに、また、正月と夏に獅子振りをすることによって、各地区・町全体地域が一つになれる。また、発表の場を設けることによって、各団体の練習や後継者育成の推進につながるとともに復興に向けた町の活力・活性化の一助になれる。

**3 調査研究**

**【事業7】身近な文化遺産を通じた地域再発見事業**

本事業をとおして、地域の住民がより主体的に地域の文化遺産を掘り起こしていくきっかけとなることを目標としている。そのための成果としては、以下の点が期待される。

- (1) 地元の公民館等事業として、一層の文化遺産の掘り起こし活動への展開 1件以上の事業化
- (2) 地元の集落組織とタイアップした、自主的な地域独自の文化事業の実施 2件以上の事業の実施

また、本事業は、身近な文化遺産という、どの地域でも実施できる性格のものである。そのため、本事業をモデルとして以下の活動を実施していく予定である。

- (1) 大学生を活用した、地元の文化遺産再発見活動
- (2) 地域博物館と地域社会が連携した文化遺産普及啓発活動

※上記2点について、1カ所での事業化を平成30年度より実施する。

**4 後継者育成**

**【事業8】正藍染後継者養成事業**

正藍染の技術の伝承は、国指定重要無形文化財保持者であった千葉あやの氏、県指定無形文化財保持者千葉よしの氏、そして県指定無形文化財保持者千葉まつゑ氏と、千葉家で代々受け継がれてきたものである。現保持者であるまつゑ氏の保持する技術を、姪である千葉京子氏および長男である千葉正一氏に継承することで、日本でも代表的な染織技術を確実に継承させることが期待される。

<b>10 その他事業（自主財源、民間団体、他省庁等からの補助（支援）を予定している事業など）</b>	
事業概要：	なし
事業概要：	なし
事業概要：	なし
<b>11 「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等</b>	
なし	
<b>12 担当部局</b>	
地方公共団体 担当部局課	宮城県教育庁文化財保護課

7 実施計画における目標と期待される効果 別紙

目標区分 1 :	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分 1 :	地域の文化遺産関係資料館、博物館等の年間入館者数					(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標 1 :	東北歴史博物館等県内博物館への入館者数			関連事業:	地域の文化遺産関係シンポジウム、事業①～⑧	
目標値 1 :	平成 29 年度	140,000 人	⇒	平成 33 年度	150,000 人	
設定根拠 1 :	毎年度作成の東北歴史博物館年報等					
進捗状況 1 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度
	人	人	人	人	人	人





